

議 事 録

件名	和光市教育振興基本計画策定委員 委嘱式 及び 第 1 回和光市教育振興基本計画策定委員会会議
日時	令和 7 年 10 月 14 日（火） 16 時 00 分～
場所	和光市役所 5 階 503 会議室
会次第	1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委嘱式 4. 委員及び事務局紹介 5. 委員長、副委員長 選任 6. 議事 (1) 和光市教育振興基本計画策定の概要 (2) 和光市教育振興基本計画策定のスケジュール (3) 和光市教育振興基本計画 素案 (4) その他 7. 閉会

【資料】

- ・ 会次第
- ・ 和光市教育振興基本計画策定委員会委員名簿
- ・ 和光市教育振興基本計画策定委員会設置規則
- ・ 和光市教育振興基本計画策定の概要
- ・ 第 2 期和光市教育振興基本計画策定スケジュール（10 月 14 日現在）
- ・ 和光市教育振興基本計画 素案
- ・ 学校教育課追加資料
- ・ 和光市教育振興基本計画（現行計画）

1. 開会

2. 教育長あいさつ

皆様、こんにちは。教育長の石川でございます。

本日は、第2期和光市教育振興基本計画の策定委員会にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

第1期計画を策定した令和3年度は、まさにコロナ禍の真っ只中で、先行きが見通せないような状況でした。そのような中で、「生涯にわたる自発的な学びと、豊かで健やかな人生の実現を支援する教育」を基本理念に掲げ、学校教育、そして社会教育においても教育活動を止めることのないよう、関係者が一丸となって各種施策を推進してまいりました。

しかし一方で、本市の教育が抱える多様な課題も見えてくると同時に、学びの在り方の変革も求められていることも明らかとなってまいりました。こうした状況を踏まえ、第2期教育振興基本計画の策定を進めてまいります。

委員の皆様には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思っております。また、いただいたご意見は、令和8年度からの本市の教育の一層の充実につながるものと確信しておりますので、何卒よろしく願いいたします。

3. 委嘱式

4. 委員及び事務局紹介

5. 委員長、副委員長 選任

委員互選により以下2名を選出

委員長 岡田委員

副委員長 佐野委員

6. 議事

(1)「和光市教育振興基本計画策定の概要」

事務局より、資料に基づき(1)について説明

【質疑内容】

委員：

【5 計画策定】にパブリックコメントを実施するとありますが、他の施策でも意見が集まりにくいという課題があると感じています。本計画においては、どのような工夫をされるのかお聞かせください。

事務局：

一応予定にはなりますが、策定委員会で作成した最終案をパブリックコメントにかけ、できるだけ多くの市民の方からご意見をいただけるよう、説明会の開催を予定しています。

また、様々な公共施設等に計画案を掲示し、ご意見をいただくなど、できるだけ多くの声を反映できるよう工夫していきたいと考えております。

委員：

承知しました。私自身が保護者の立場でもありますが、保護者の関心は高いと感じています。そうした保護者の意見もうまく汲み取っていただければと思います。

委員長：

他にいかがでしょうか。

委員：

4 ページ【計画策定の趣旨】の「事務に関する点検評価」という箇所についてです。この「内部評価者」とはどのような方を想定されているのか、また市民の参加は含まれるのか教えてください。

事務局：

こちらの研究評価につきましては、基本的には我々事務局の自己評価と、外部有識者（大学の先生）による評価を実施しております。

令和6年度の評価を今回伺いましたが、当委員会の委員長である岡田先生と、もう1人別の大学の先生に有識者としてご意見をいただき、それを点検評価の中で反映させていくという形になっております。

委員：

ここに市民は含まれていないのでしょうか。

事務局：

この全体評価に関しては、市民の方が直接含まれている形にはなっていない状況になります。

(2)「和光市教育振興基本計画策定のスケジュール」
事務局より、資料に基づき(2)について説明

【質疑】なし

(3)「和光市教育振興基本計画 素案」

事務局より、資料に基づき第1章から第3章までについて説明

【質疑内容】

副委員長：

もしよろしければ副委員長の立場ですが、事務局に質問させていただきます。

25ページについてです。基本方針が1・2・3とございますが、令和3年度の方針と比較しますと、「コロナに関する項目」が抜けているように見受けられます。おそらく、コロナが収束したことを踏まえての対応かと思います。

ただし、26ページの「方向性」の箇所では、従来どおり「新型コロナウイルス感染に伴う新たな教育の推進」という文言が残っており、整合性の観点から少し気になりましたので確認させていただきました。

事務局：

ご指摘ありがとうございます。実は、その部分については修正を行っておりまして、本日お配りしている資料では、基本方針4の内容を修正済みとなっております。

副委員長：

承知しました。古い資料を確認していたようです。

事務局：

資料については、データおよび紙媒体の両方で配布しておりますが、一部修正中のものもあり、最新の内容に差し替えております。その点をご承知のうえでご確認いただければと思います。

委員長：

私も確認していて、少しずれがあると感じておりました。修正後の資料が本日机上に配布されているものということですね。

他にご意見等がございましたらお願いいたします。

事務局より、修正点について説明

委員長：

ただいま、事務局より丁寧な説明がありました。内容もだいぶブラッシュアップされているようです。これを踏まえ、何かご意見等ございましたらお願いいたします。

委員：

第2章第2節1の「学校教育」の(3)および(4)を拝見しました。学習状況について、全国学力・学習状況調査の結果では、和光市の子どもたちの学力が高いという内容を学校等

からの便りで保護者にも周知しており、非常に素晴らしいことだと感じております。

一方で、(4)では、小学校・中学校ともに多くの項目で全国や埼玉県の平均を下回っているとの記載があります。特に、小学校では「英語の学習が好き」と回答した児童の割合が大きく下回っており、中学校では「PC やタブレットなどの ICT 機器をあまり使っていない」との回答が見られます。

この結果について、どのような分析をされているのか、可能な範囲でお聞かせください。

事務局：

ご指摘のとおり、我々としても同様に認識しております。

英語につきましては、高いレベルでの学習が進んでいる一方で、「英語が好きではない」と回答する児童が一定数いるという結果が出ており、課題と捉えております。

また、ICT につきましては、GIGA スクール構想に基づき令和3年度からタブレットの活用を進めてまいりましたが、コロナ禍が収束した現在、子どもたちの活用の仕方に課題が見られる状況です。

今後はこれらを踏まえ、課題解決に向けた取組を検討・推進してまいります。

委員：

私も先ほどの英語の話と関連して、好きでなくても勉強ができることは素晴らしいことですが、やはり「好きで成績が良い」ことが理想だと感じます。

私は社会福祉協議会に所属しており、毎年小学校4年生の児童を対象に、学校からの依頼で「福祉教育」を総合の授業で行っています。中央エリアを担当しており、第三小学校・本町小学校・広沢小学校で授業を実施しており、今年も2回ほど実施しました。

その中で印象的だったのは、児童が事前に「福祉とは何か」「障がいとは何か」といったテーマを、タブレットやインターネットで調べ学習していることです。子どもたちは「こんな情報を見つけた」と積極的に共有してくれており、地域の方と事業を進める上でのヒントにもなっています。

家庭ではスマートフォンなどを日常的に使用している子どもが多いですが、それが授業内容と結びつかないこともあります。今後は ICT を上手に活用するため、授業に効果的に生かしていくための工夫が求められるのではないかと思います。

委員長：

ありがとうございました。英語の学習意欲の向上、そして ICT の効果的な活用について、ご意見をいただきました。

委員：

先ほどの話と関連しますが、英語の学習意欲が大幅に低いという点、それから中学校に進学すると英語が得意な子と苦手な子に大きく分かれるという話をよく聞きます。

その理由として、小学校では「話す・表現する」といった教育が中心で、「読み書き」にあまり重点が置かれていないことがあると伺いました。

一方で、中学校では「読み書きができていないこと」を前提に授業が始まるため、苦手な子がつまずいてしまうケースがあるようです。この点を改善しないと、英語の学力全体の底上げにはつながらないのではないかと感じています。

また、ICT の活用についてですが、コロナ以前はなかった ICT が授業に加わり、授業時間自体は変わらない中で、これまで「読み書き」に使っていた時間が ICT の活用時間に置き換わっているようにも見受けられます。その結果、全体的に「書く量」が減っているのではないかと感じています。

今後、この点についてどのような取り組みを検討されているか、お伺いしたいと思います。

事務局：

英語の点につきましては、ただいま二極化についてのご指摘がありました。学力と好き嫌いの関係による影響については資料には記載しておりませんが、重要な課題と捉えております。

ICT につきましては、導入から5年が経過し、端末の入れ替え時期を迎えています。これまでの反省を踏まえ、次回の端末更新やアプリ導入にあたっては、学校現場の意見を反映し、より効果的なものへバージョンアップしていく予定です。

また、現場では教員の ICT 活用は進んでいる一方で、児童・生徒による活用が十分とは言えないという課題意識を、現在、校長会を含めて共有しているところです。

今後は、ICT を学びの道具としてどう活用していくかを検討し、短期的な改善にとどまらず、継続的な研究を積み重ねる必要があると考えます。

事務局より、資料に基づき基本施策 1 について説明

【質疑内容】

委員：

先ほど、英語の学習について「好き」と回答した児童の割合が小学校で全国平均を 10 ポイント以上下回っているという結果がありました。

英語は、国際社会における重要なツールの一つであり、この結果を踏まえると、基本施策に記載されている「グローバル化・多文化共生社会への対応」において、異文化理解や国際的素養を育む教育は非常に重要だと感じました。

また、先ほど「地域の課題に子どもたちも関わって解決する」というお話がありましたが、和光市は非常に国際色が豊かで、外国人の方も多くいらっしゃいます。そうした方々が本市で生活するうえでの課題などをテーマに、子どもたちが探究的な学びの中で調べ、課題を解決していくような学習については、「探究的な学び」がキーワードとして新たに位置づけられたとの説明がありました。

この点をうまく結びつける形で、施策をさらに深めていただけるとよいのではないかと思います、コメントさせていただきました。

事務局：

まさに、グローバル化や異文化理解の観点については、どのように位置づけるか検討を重ねていたところでした。今回、そのような視点から捉えていただけたことは、大変ありがたく感じております。

また、探究的な学びについても、地域には多様な素材があり、より「生きた学び」を実現していくことが重要だと考えております。

今後、言葉や表現等のご提案がありましたら、ぜひお寄せいただければと思います。

事務局より、資料に基づき基本施策2について説明

【質疑内容】

委員：

不登校の児童について伺います。ニュースなどでも増加傾向にあると報じられていますが、こういったときに不登校になる傾向があるのか、また、「学校文化の醸成」という言葉がありました。そうした取組によって原因へのアプローチがどのように行われているのか、お考えをお聞かせください。

事務局：

不登校児童生徒の傾向については、従来とはやや異なる動きが見られています。これは決して悪い意味ではなく、「必ずしも学校に通うこと」が子どもの成長にとって最善とは限らないという観点から、将来的な社会的自立につながるような支援のアプローチも考えられています。そのため、単に増減のみで状況を判断するのではなく、より広い視点で捉えることが求められていると考えています。

一方で、学校としても課題意識は持っており、学校全体の文化や雰囲気の中でどのように解消していくかを模索しているところです。子どもたちが「学校に来たい」と主体的に感じられるような学校づくり・クラスづくり・学年づくりにつなげることが重要だと考えています。

今回の基本施策2では、そうした学校文化を中心に据え、体験的な活動を通して不登校支援につなげていくことを目指しています。

委員：

情報化社会の中で、今の子どもたちはさまざまな状況を抱えており、価値観そのものも大きく変化しています。

学校に通うことだけが全てではないという考え方も、1つの価値として認めながら、その子どもにふさわしい形で環境を提供していけるかを考えていく必要があると思います。

答えのない課題ではありますが、一人ひとりのケースに応じた対応が求められると感じました。

委員長：

その他でご意見等あればお願いいたします。

委員：

和光市社会福祉協議会でも、今年度から「こどもゆめづくり課」という新しい課が設置されました。学童や放課後クラブなど、子どもに関わる様々な取組を行っており、施設管理というよりも、子どもとしっかり向き合い、サポートしていくことを重視しています。

まだ立ち上がったばかりで大きな部署ではありませんが、不登校の子どもへの支援などにも取り組み始めているところです。

今後、こうした活動がさらに展開されていくと思いますので、情報共有をしながら支援の輪を広げていければと思います。

また、情報化社会の中で、必要な情報を受け取れないことで支援から取り残されてしまうご家庭もあるため、そうした方々にしっかり情報が届くような体制づくりにもつなげていければと感じています。

事務局より、資料に基づき基本施策3について説明

【質疑】なし

事務局より、資料に基づき基本施策4について説明

【質疑内容】

委員：

外国籍児童生徒への指導についてですが、ここに記載されている日本語指導や文化的背景への配慮といった支援は、ぜひ今後も充実していただければと思います。それに加えて、2点ほど提案があります。

まず1点目として、外国籍の子どもたちの周囲には日本人の子どもたちも多くいます。日本人の子どもたちが自然な形で外国籍児童生徒を支援・サポートできれば良いのではないかと感じています。これは、基本施策1とも関連する部分だと思います。

近年、メディアや報道の中で外国人に対する偏見や排他的な意見が見られることもあり、子どもたち自身もそうしたメディアを目にします。外国籍の子どもたちは、そのような報道を目にして心を痛めているかもしれません。したがって、外国籍の子どもへの配慮に関しては、日本人の子どもたちにも、先生方から指導をお願いしたいと思います。

2点目として、教員への研修も非常に重要だと考えています。基本施策3につながりますが、多文化共生の背景や、外国籍児童生徒への指導に関して、教員研修をさらに充実していただければありがたいと思います。

委員長：

他にご意見ございますか。

委員：

外国籍の子どもへの支援についてですが、私は地域学校協働本部の活動に関わっており、広沢小学校には多くの外国籍の子どもたちが在籍しています。家庭科の授業などで地域から支援に入ることもあります。

広沢小学校では、外国籍の子どもがいると、日本人の子どもたちが日本語で声をかけ、「ここはこう言うんだよ」「こうするといいよ」と教えてあげる姿が見られます。先生方も、「外国籍の子どもたちを助けてあげてね」と日本人児童に対して指導されていると感じています。

委員長：

当たり前の日常かもしれませんが、そこには先生方の指導が入っていると思います。

委員：

実際、広沢小学校では外国籍の児童が多いため、地域の支援者の方々が授業時に日本語の練習のサポートに入ることもあります。

委員長：

ありがとうございます。目指す姿を具体的にお話していただきました。

事務局より、資料に基づき基本施策5について説明

【質疑内容】

委員：

基本施策5の施策2「各学校におけるPTAや保護者の会、学校応援団等、学校を支える組織との連携・協働」についてです。

私はPTA連合会に所属しておりますが、近年PTAの加入者数が減少傾向にあります。主な理由として、保護者の多くが多忙であり、学校への協力に十分な時間を割けないという声が多く聞かれます。

また、本市では講演会などを開催していただいておりますが、出席できなかった保護者からは「議事録や資料など、内容が分かるものを共有してもらえるとありがたい」との意見もあります。

さらに、情報発信についても、保護者の中には「知りたいが、どこに問い合わせればよいかわからない」という声が多くあり、定期的な情報発信の仕組みを検討していただけると助かります。

事務局：

今ご指摘いただいた点については、まさにおっしゃる通りでして、同様のご意見もこれまでも伺っております。

活動内容を「こういう取り組みをしています」といった形で共有していく情報発信の仕組みは、非常に重要だと考えています。今後は、各学校とも連携しながら、どのような形で情報提供を行うのか検討していきたいと思っております。

また、保護者の方々が参加へのハードルを感じず、「これならできそう」と思えるような環境づくりにも努めていきたいと考えています。

そのためにも、現場の具体的な声を引き続き伺いながら、より良い形に繋げていければと思います。

委員：

ありがとうございます。PTAの担い手の減少については、PTAへの理解がないというよりも、「何かしら力になりたいけれど、時間の都合で参加が難しい」という保護者が多いのが実情です。

少しでも「自分にもできる」と感じてもらえるような企画があれば、協力してくださる方も増えると思いますので、ぜひご検討をお願いいたします。

委員長：

取り巻く現状も変化してきていますからね。

委員：

地区社会福祉協議会（地区社協）についてですが、現在は5つの小学校区すべてに設立さ

れています。もともとは高齢者を対象とした活動が中心でしたが、近年では PTA などの人手不足もあり、子どもたちの活動支援にも積極的に関わるようになっていきます。

私の所属する北原地区社協では、校長先生のご意向もあり、子どもたちに作物づくりを体験させたり、学校を花で飾る活動を行ったりしています。その一環として、プール裏の土地の草刈りなどをお手伝いしています。保護者の方々も協力されていますが、皆さんお忙しいため、主に地域の高齢者ができる範囲で支援している状況です。

こうした地域の連携は非常に大切なことだと思いますので、計画の中でももう少し大きく取り上げていただけたらと思います。

また、「連携を強化する」といった堅い表現ではなく、もう少し柔らかい言葉で表現していただけるとよいのではないかと感じました。社会福祉協議会が関わっている部分でもありますので、その点も含めてご検討いただければと思います。

委員長：

大変重要なご指摘をいただいたと思います。学校教育と社会教育は本来切り離して考えられるものではなく、相互に連携していくことが必要です。施策についても、どちらか一方の領域というよりお互いに考えていくべきだと思います。

子どもを育てる環境をいかに持続可能な形にしていくか問われている中で、今のご意見は非常に重要なものであると感じております。ありがとうございました。

委員：

先ほど「情報が欲しい」というお話がありましたが、学校や教育委員会からの連絡はすでに、さくら連絡網や和光市のホームページなどで発信されています。

ただ、最近の保護者の方々からは「さくら連絡網が来ていたのに見ていなかった」「そんなの来てたっけ？」といった声も多く聞かれます。つまり、情報が届いていても、保護者側が内容を確認していないケースが多いようです。また、自ら本市のホームページを確認する機会はあまりないと思います。

和光市では LINE の公式アカウント登録や、市長の Instagram など、若い世代にも身近な発信手段も増えていますので、そういったツールをうまく活用しながら、より多くの保護者に情報が届くよう工夫していくことも大切だと思います。

委員：

さくら連絡網や LINE など、デジタルツールによる情報発信が進んでいますが、やはりインターネット上では自分の興味のある情報ばかりが目に入り、関心のない内容は見逃してしまうことも多いと思います。

そのため、デジタル配信だけでなく、学校からのお便りなど紙媒体での案内も引き続き併用していただけるとありがたいです。

委員：

しかし、子どもがお便りをすぐに渡さず、2～3日経ってから出すこともあるとよく聞き

ます。

事務局より、資料に基づき基本施策6について説明

【質疑内容】

委員：

空調・トイレなど、施設改善が進められていることは非常に良いことだと思いますが、そのうえで、防犯の面について伺います。

子どもたちが心地よく過ごせる環境づくりという点では大きく改善されているように感じますが、外部からの侵入者への対応など、安全確保のための防犯対策については、どのような取組がなされているのでしょうか。

事務局：

防犯につきましては、第1期計画の期間中に、防犯カメラの増設など、外部からの不審者対策として一部整備を進めてまいりました。しかしながら、現状ではまだ十分とは言えず、今後も継続的な対応が必要であると考えております。

具体的には、門の修繕・通行設備の導入など、どのような場面でどのような対応が求められるかを整理した上で、必要な設備の導入を検討してまいります。

この点については、現時点ではまだ詳細な議論に至っておりませんが、今後引き続き検討を進めていきたいと考えております。

事務局より、資料に基づき基本施策7について説明

【質疑】なし

事務局より、資料に基づき基本施策8について説明

【質疑内容】

委員：

施策4【多様なニーズに対応した教育の推進】についてですが、「多様なニーズ」や「現代的な課題」「地域課題」と掲げてあります。この部分をもう少し具体的にイメージできるように、ご説明いただけますか。

事務局：

例えば健康・子育てといった分野を想定しています。

また、高齢者がスマートフォンの使い方を学ぶ講座なども、現代的なニーズとして対応している取組みです。

事務局より、資料に基づき基本施策9について説明

【質疑】なし

事務局より、資料に基づき基本施策 10 について説明

【質疑】なし

(4)「その他」

【質疑内容】

副委員長：

全体を通しての意見になりますが、指標の設定の根拠や数値目標の設定方法について、以前から気になっておりました。

指標は各施策の達成度を客観的に評価するためのものだとは理解していますが、施策数と指標数が必ずしも一致していない点が気になっていました。今のお話を伺うと、数値化できるものとできないものがあり、そのために数が一致しない場合もあるとのことでしたので、そのように理解いたしました。

次に、数値の目標設定についていくつか確認させていただきます。

まず 38 ページ【規律ある態度】の項目ですが、令和元年度が 81.3%、令和 6 年度が 86.5%と上昇しております。そして、目標値の「55.0」は誤記で、「90.0」が正しいのではないかと思います。こちらは現実的な数値設定だと感じました。

一方で、その下の【体力テスト】の項目では、本市に限らず子どもの体力が年々低下傾向にあり、それに対して令和 12 年度に「100%」を目指すというのは、やや現実的ではないのではと感じました。

また、42 ページ【教員の ICT スキル】の項目では、令和元年度が 29.9%、令和 5 年度には 46.1%まで上昇しています。この流れを踏まえると、令和 12 年度の目標値「50%」はやや控えめで、もう少し高めに設定しても良いのではないかと感じました。

さらに、48 ページ【コミュニティ・スクールへの関心、理解】については、令和元年度 2.6%、令和 5 年度 5.8%と依然として低い状況です。私たちも関心を高めるため広報活動に取り組んでいますが、それでも数値は伸び悩んでおり、令和 12 年度に「50%」という目標はかなり厳しいのではないかと感じました。

全体的に 50%未満の目標値が設定されていないように見えたため、何かルールがあるのか気になりました。場合によっては、現実的な目標値を設定しても良いのではないかと感じています。

事務局：

全体の計画の構成について整理いたします。

指標の設定につきましては、各施策で担当となる所管課を定め、その課で目標を設定しています。そのため、現実的な水準を目指す場合と、理想的な数値を掲げる場合とで、それぞれ考え方に違いがあるかと思います。

また、委員の皆さまは公募や各団体の代表としてご参加いただいております。それぞれの立場や分野から見た課題があると思います。今後、皆さまから目標値について「現実的ではないのでは」「もう少し高く設定しては」といったご意見をいただき、それを踏まえて我々事務局としても目標設定や考え方を再検討したいと考えています。ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います。

委員長：

数値目標についても、まだすり合わせの余地があるというお話でした。数値にも目を向けていただければと思います。

それでは、その他いかがでしょうか。

委員：

本日の資料には記載がなかったのですが、最近「中学校の部活動の地域移行」という話題を耳にしました。

他市では、すでに地域移行を進めている学校もあると聞いております。本市では、この資料に記載がないため、今後、市としては地域移行を進める予定はないという理解でよろしいでしょうか。

事務局：

「地域移行」という言葉自体は今回の資料には明記しておりませんが、基本施策2【施策4 運動に親しみ、健やかな体を育む教育の推進】の中で、「学校内外の活動環境の充実や指導体制の工夫を進め、持続可能な運営を支えます。」という記述があり、この中で運動部活動の地域移行を含む考え方に触れています。

また、運動系以外の部活動、例えば吹奏楽や美術などについては、基本施策2【施策3 情感豊かな心を育む教育の推進】の中で「芸術文化に触れる鑑賞・表現活動を通じて、感性や創造性を育み、自己表現や他者理解を深める学びを推進します。」という形で、部活動の充実という観点から示しています。

ご指摘いただいたので、「地域移行」という表現の明記については、【基本施策3 質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実】などに追記することも含めて、今後検討してまいります。

委員：

保護者の方からも時々ご質問をいただきます。特に高学年（5・6年生）の保護者の方に関心が高いようです。

実際に地域移行に取り組まれた他市の方からは、教員の負担が大きく軽減されたというお話がある一方で、地域団体による指導が厳しくなり、「優勝を目指す」といった強い競争意識を持つケースも見られ、負担が増したという声もあるそうです。

また、学校の校庭が使えないため外部施設を借りる必要があり、その利用料や送迎・交通費など、保護者への金銭的・体力的な負担も増加しているとのことでした。こうした課題もあるということを伺っております。

委員長：

部活動の地域移行は、さまざまな面に波及する大きな課題だと思います。和光市としてどのような形で進めていくかは、今後さらに検討を重ねていく必要があるかと考えます。

また、本日配布している「意見提出表」にもご記入いただけますので、そちらもご活用い

ただき、ご意見をお寄せください。

7. 閉会